

デジタル化の便利さとアナログの質感・量感

図書館副館長 従二 和彦

あまり本を読む習慣のない私が、縁あって本学図書館に関わることになり、ほとんど素人の私が「図書館」についてあれこれ考える時間が増えました。私にとっては画期的な事です。

先日、館長、事務長、職員の方とお話をしていて、「城西大学の歴史・足跡を辿れる資料がキャンパス内にあれば！」という点が妙に印象に残りました。「歴史」と言ってもいろいろなレベルがあり、確かに歴史を示すものも多くあるでしょう。

しかし、例えば以前に城西大学でお仕事をされていた方(教員とは限りません)のお子さんが本学にお出でになる機会があり、「私の母(父)は城西大学でどんな仕事をしていたのでしょうか？」と尋ねられたときに、どうすればいいでしょう？

この答えが得られる資料は是非あって欲しいですし、これが図書館にあれば分かりやすいですね。教員であれば開学以来の講義要項が全て揃っていればある程度は調べられるとして、今、どこかにあるでしょうか。職員の方の場合にはもっと難しいかも知れません。

昨年、私は居室を新築の 18 号館にいただき、6 号館から引っ越しましたが、それを機に身辺整理？を始め、いまだに続けております。

以前から種々の資料をデジタル化(実際には pdf ファイル化)して保存することはしてきましたが、それをさらに加速することにしました。素人仕事ではありますが、スキャナはもう2代目(自宅の初代を入れると3代目)になります。バラしても構わない冊子体をスキャナで取り込むためにカッターも購入しました。はじめは何でも pdf ファイルにすれば便利と思い処理していました。

570 ページを超える「講義要覧 2008 薬学部」を高品質で pdf ファイル化しても 15 分ほどで 86MB のファイルにできます。例えば学長先生の「森本」の文字列が含まれる箇所を検索しても瞬時に 20 カ所が見つかります。これはデジタル化ならではの便利さです。「本棚は要らない！」とまではいかななくても省スペース化には本当に有効です。

ただ、このような作業を続けていて気付いたことがあります。本という体裁が有している質感・量感が電子ファイルでは表現できません。味気ないものです。何を今さら、と言われそうですが、(お金のかけ方にもよるのかもしれませんが……)デジタル化に向くもの・向かないものがあるということを実感しました。

学術的な資料のみならず、先に述べたような小さな歴史を辿る場合でも、デジタル化資料がいい場合と本物・アナログでないダメな場合があるようです。文系・理系の教員間にも似たような感覚の違いはありそうです！

これからの図書館に期待される一側面は、両者がバランスよく共存し、多くの利用者のニーズを満たすことなのかと感じており、私自身もできるだけ図書館に足を運んで、ニーズを生む側にもなろうと思えます。

レポートを書く



ステップを極めよう



【右記参考文献】
『思考力PISA型
読解力を高める
ことを目的とした
学校図書館の
「読書」支援』
／桑田てるみ
【現代の図書館
Vol.46No.1】

Step. 4~5 でのヒント

はじめに=「主張」

- なぜなら(&文献)
- それに(&文献)
- また(&文献)
- さらに(&文献)
- このように=「結論」

レポートの最終・最大目的は
「自分の意見」を出すことです。
別に拙(つたな)くても構いません。
あなた「自身の言葉」が必要なのです。



Step. 5 自分の意見を述べる

引用は必要最小限に。「取り過ぎ」は、「盗り過ぎ」です。
どの部分が? 何から? …出典明示・明記の心がけを!



Step. 4 文献の引用・参考

Step. 3~4 での役立ち資料

- ・基礎的な手がかり → 本
- ・定期的な考察
→ 雑誌/電子ジャーナル
- ・ニュース記事 → 新聞
- ・学術研究 → 論文



文献は「埋蔵金」のありかです。
レポートを自分の知識だけで書くと、思わぬ
落とし穴があることも。
文献という他者の意見も参考にしましょう。

Step. 3 資料(文献)を見つける



「目的地」に辿り着くため、
手がかりとなる「キーワード」を選びましょう。
なお言葉は一つではありません。
一語にこだわらず、類語や関連語を活用しましょう。



Step. 2 キーワードを選ぶ



「テーマ」は言わば「目的地」。
たとえ放浪の旅をする人でも、
東西南北くらい決めてから旅立ちます。
第一歩目を踏み出せるのは、
あなた自身しかいません。

Step. 1 テーマを定める

Step. 1~2 での役立ち資料

- ・『現代用語の基礎知識』
- ・『類義語辞典』
- ・『JapanKnowledge』
(事典・辞典データベース <http://na.jkn21.com/>)
- ・『新聞縮刷版』の索引
- …などなど

データベース紹介 D1-Law.com

第一法規株式会社のデータベースで憲法から告示まで2万8千件余の法令、約18万件の判例とこれ
を理解するための要旨・解説情報、また、幅広い収録対象誌から収集した約51万件の文献情報等の法
情情報を検索することができるデータベースです。

判例、文献、現行法規などを検索することが可能で、判例にはその解説などが盛り込まれたものもあ
り、大変利便性が高いものになっています。



現行法規の検索では最新の法規と、将来施行される予定の法規を検索することができます。法令構造や法区分、法分野といったものから検索が可能です。



法律判例文献検索では、事項索引、分類、著者、掲載誌、発行所、発行年月日など細かな条件で検索できます。文献の詳細を検索した場合は関連した判例や文献を、判例を検索した場合には雑誌などに掲載された判例の情報を探すことができます。



判例体系ではキーワードだけでなく裁判年月日、裁判所、事件番号、裁判官名、出典などから検索ができます。検索した判例によっては詳細な解説を見ることもできます。

※税務・会計法規は入り口が違いますのでご注意ください



改正前の条文と改正後の条文を蓄積・管理して任意の日付を指定すれば、いずれの時点であっても、その時有効な条文を検索します。さらに、従来のデータベースでは確認できなかった改正内容を「新着情報」（公布文、ポイント解説、新旧対照表）として確認できます。

法令と判例体系、法律判例文献は相互に連携していますので、リンクをたどって効率的に参考文献の検索にあたる
ことができます。D1-Law.com は図書館ホームページ(<http://libopac.josai.ac.jp/>)の国内データベース一
覧より利用することができます。

なおD1-Law.com は同時利用数が1名のみです。他の方が利用している場合は少しお待ちください。
終わったらログアウトすることを忘れずに！

日経テレコン21の講習会が行われました

5月25日に日経テレコン21の講習会が行われました。

日経テレコン21は日経新聞社のデータベースで、日経4誌の掲載記事だけでなく、一般紙、業界専門紙など90紙以上の新聞記事、日経BP社などが発行する80誌以上の雑誌記事情報、国内120万社、世界5000万社の企業情報や人事情報なども閲覧することのできる優れたデータベースです。

経済のデータベースという、それに関連する学科にしか必要ないと思われがちですが、日経テレコンの広範囲な情報は就職活動を行ううえでも大変有効です。

日経テレコンを使えば、経済界の情報だけでなく、企業の業績などを時系列にしたがって見ることが出来、面接対策としても十分に効果を発揮します。

このほか、業界の動向チェックまで、あらゆるビジネスの貴重な情報源となりうる汎用性の高いデータベースでもあり、社会人になってからも役に立つことは間違いありません。

今回の講習会では特別に複数のIDを取得して全員で検索に参加することができました。

通常使う場合には、パスワード認証制なのでカウンターで申し込みをしてください。

図書館スタッフがIDとパスワードを入力してログインします。

月替わり図書館企画

図書館では読書推進計画のひとつとして毎月テーマを決めて図書館員によるお勧め本の紹介や展示を行っています。

4月は大学生に薦める100冊の本、5月は旅と鉄道についてお勧め本の紹介でした。

6月のテーマは「これで解決！レポートを書こう！」。

今回の特集記事とあわせれば試験前のレポートも怖くない！

大学に入ってからレポートというものを初めて書いたという人も少なくないと思いますが、レポートは読書感想文でも本の中身を抜き出して書くだけのものでもありません。

効率のいいレポートの書き方と同様、どうすればいいレポートが書けるのか、そういった資料も数多くあります。

ぜひとも手にとって、よりよい学習の一助としてください。



寄贈本の紹介

図書館だより4月号の木村名誉館長のご紹介にありました平塚先生に関連する図書「追憶・平塚益徳博士」を、柴沼晶子先生（敬和学園大学名誉教授）より寄贈していただきました。

「追憶・平塚益徳博士」は3階・開架図書 [289.1/H68] に配架されています。